

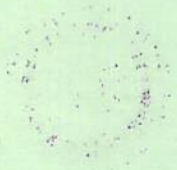
島津ガバナー公式訪問報告書

1965. 10. 28



鹿児島西ロータリークラブ

1.
事務所



1911

目 次

クラブアッセンブリープログラム	1
役員並びに委員名簿	2
会 長 報 告	3
概 況 報 告	4
会 計 報 告	5
クラブサービス報告	5
出席奨励委員会報告	5
職業分類委員会報告	8
会員選考委員会報告	9
プログラム委員会報告	9
広報委員会報告	11
親睦委員会報告	11
ロータリー情報委員会報告	12
会報、雑誌委員会報告	13
S . A . A 報 告	14
職業奉仕委員会報告	14
社会奉仕委員会報告	15
青少年奉仕委員会報告	16
国際奉仕委員会報告	16

附 表

昭和40年度予算書

会 員 名 簿

会員職業分類表 (別紙)

ク ラ ブ 会 報 ()

クラブアッセンブリープログラム

1965. 10. 28

		於	鶴	鳴	館
17.00 ~ 17.01	開 会 の 辞	副 会 長	米	倉	秀 雄
17.01 ~ 17.04	ロータリーソング(奉仕の理想)斉唱				
17.04 ~ 17.10	歓 迎 の 辞 及 び ガバナー紹介	会 長	塘		一 郎
17.10 ~ 17.15	ガバナー挨拶	ガバナー	島	津	久 厚
17.15 ~ 17.25	会 員 自 己 紹 介				
17.25 ~ 17.30	会 長 報 告	会 長	塘		一 郎
17.30 ~	概 況 報 告	幹 事	河	井	時 義
	会 計 報 告	会 計	飛	岡	俊 夫
	クラブサービス報告	会務担当	高	徳	三 蔵
	出席奨励委員会報告	委 員 長	川	村	洋
	職業分類委員会報告	"	大 小	田	友 一
	会員選考委員会報告	"	桜	美	四 郎
	プログラム委員会報告	"	西	郷	隆 永
	広報委員会報告	"	鮫	島	志 芽 太
	親睦委員会報告	"	土	橋	英 夫
	ロータリー情報委員会報告	"	川	路	清 高
	会報・雑誌委員会報告	"	福	田	敏 之
	S . A . A . 報 告	S . A . A	高	井	敏 治
	職業奉仕委員会報告	委 員 長	岩	元	正 二
	社会奉仕委員会報告	"	安	楽	慶 一 郎
	青少年奉仕委員会報告	"	柴	山	一 雄
~ 18.40	国際奉仕委員会報告	"	島	津	忠 丸
18.40 ~ 19.00	講 評	ガバナー	島	津	久 厚
19.00 ~ 19.01	閉 会 の 辞	幹 事	河	井	時 義

役員・委員名簿

1965-7~1966~6

会 長 (理事)	塘	一 郎
副会長 ()	米 倉	秀 雄
幹 事	河 井	時 義
副幹事	藤 安	辰 造
理 事	岩 元	健 吉
,	高 德	三 蔵
,	岩 元	正 二
,	安 楽	慶 一郎
,	柴 山	一 雄
,	島 津	忠 丸
会 計	飛 岡	俊 夫
S. A. A	高 井	敏 治

会務担当 高 德 三 蔵

出席奨励	◎ 川 村 洋	○ 牧 田 健 二・町 田 久 敬・徳 田 基
職業分類	◎ 大小田 友 一	○ 黒 木 長 太 郎・柳 田 喜 雄
会員選考	◎ 桜 美 四 郎	○ 林 幸 光・倉 園 清 市
プログラム	◎ 西 郷 隆 永	○ 高 田 光 義・名 越 時 秀
広報	◎ 鮫 島 志 芽 太	○ 田 平 禮 章・岡 山 栄
親睦	◎ 土 橋 英 夫	○ 小 山 幸 義・堀 川 昇・岩 田 太 一
ロータリー情報	◎ 川 路 清 高	○ 久 保 政 次・岡 元 健 一 郎
会報・雑誌	◎ 福 田 敏 之	○ 齊 藤 善 右 衛 門・鮫 島 志 芽 太 (兼)
職業奉仕	◎ 岩 元 正 二	○ 衛 藤 右 三 郎・齊 藤 一 夫
社会奉仕	◎ 安 楽 慶 一 郎	○ 上 野 得 郎・堀 之 内 昭 一 郎
青少年奉仕	◎ 柴 山 一 雄	○ 高 井 敏 治 (兼)・光 安 善 雄・春 山 ジ ャ ス テ ン (兼)
国際奉仕	◎ 島 津 忠 丸	○ 佐 伯 延 次 郎・春 山 ジ ャ ス テ ン

◎ = 委員長 ○ = 副委員長

会 長 報 告

会 長 塘 一 郎

早いもので、私達の鹿児島西ロータリークラブが設立されて、第3年目を迎えています。この重要な時期に、私は第三代目の会長に就任しましたが、クラブの運営や活動をどうしてやっていくか、ロータリー歴が2年余りしかない私には、些か荷が重すぎるように思います。しかし会員が有能な方々ばかりで、しかも皆さんが積極的に協力していただけますので、今日まで何とか責を果し得たことを感謝しております。

クラブの運営につきましては、何よりクラブの基礎固めと内容の充実に最重点を置いておりますが、殊にクラブが未だ若く、しかも最近新入会員が急にふえましたので、この点を特に強調しております。クラブの基礎固めと内容の充実こそ、クラブの奉仕活動の原動力であると考えます。その為には会員の出席率の向上を図り、会員間の和を深め、その上で各人がロータリー精神に徹して、奉仕の理想の実現に努めるよう運営したいと思っております。

クラブの活動につきましては、R.I会長の方針に従い、ConsolidationとContinuityを旨として、やっております。

個々の具体的活動につきましては、各委員会からの報告に述べられておりますから、ここには省略させていただきます。

概 況 報 告

幹 事 河 井 時 義

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 創 立 年 月 日 | 昭 和 3 8 年 3 月 2 3 日 |
| 2. 承 認 年 月 日 | 昭 和 3 8 年 6 月 2 7 日 |
| 3. チャーターメンバー | 2 5 名 (内 現 会 員 1 7 名) |
| 4. 本 年 度 頭 初 会 員 数 | 4 3 名
入 会 者 1 名 |
| 5. 現 在 会 員 数 | 正 会 員 4 2 名 アディショナル正会員 1 名
シニア・アクティブ会員 1 名 計 4 4 名 |
| 6. 平 均 年 令 | 5 1. 4 才
3 0 才 台 6 名 6 0 才 台 8 名
4 0 才 台 1 1 名 7 0 才 台 2 名
5 0 才 台 1 7 名 |
| 7. 出 席 率 | 9 9. 0 9 % (3 9. 1 0 ~ 4 0. 9) |
| 8. 予 算 | 末 尾 の 通 り |
| 9. 入 会 金 | 1 5, 0 0 0 円 |
| 10. 会 費 | 3 6, 0 0 0 円 |
| 11. ビジター会費 | 3 5 0 円 |
| 12. 会 報 | 週 報 …… 毎 週 発 行
会 報 …… 年 2 回 発 行 |
| 13. クラブアツセンブリー | 5 回 開 催 |
| 14. フォーラム | 2 回 開 催 |
| 15. 炉 辺 会 合 | 委 員 会 毎 に 7 回 開 催 |
| 16. 理 事 会 | 定 例 理 事 会 …… 毎 月 第 2 週 例 会 後 開 催
臨 時 理 事 会 …… 必 要 に 応 じ 適 時 開 催 |
| 17. 県 下 R.C 会 長 幹 事 会 | |

大 体 3 カ 月 毎 に 輪 番 で 開 催 , お 互 に 意 見 の 交 換 を 行 つ た り 共 同 事 業 を 協 議 し こ れ を 実 施 し て い る 。

会 計 報 告

会 計 飛 岡 俊 夫

1. クラブの会費は年額36,000円を7月と1月の2期に分割徴収している。
2. 7月初旬に理事会で年間の予算を樹て、総会の承認を得た上で運営されている。予算外の支出は必ず理事会の承認を得て支出されている。
3. 期末には監査を行い、会員に対し会計の報告をしている。
4. ロータリー財団に対し、100%寄与している。
米山記念奨学会に対しても同様寄与している。
5. 本年度の予算は末尾の通り。

ク ラ ブ サ ー ビ ス 報 告

会務担当 高 徳 三 蔵

基本方針

各委員会の運営を友好且つ和気藹々裡に総括すると共に各委員会間の横の連絡を充分図り、クラブ活動を円滑に推進する。

業 績

1. アッセンブリーを5回開催した。
2. フォーラムを2回開催した。
3. ファイヤサイドミーチングを7回開催した。

計 画

調和のある各委員会活動を、積極的ならしめるよう努力する。

出 席 奨 励 委 員 会 報 告

委員長	川	村	洋
委員	牧	田	健二
"	町	田	久敬
"	徳	田	基

基本方針

例会に出席して知合いを広め、親睦を図ることがロータリー精神を涵養し、奉仕活動に徹する

ための第一歩であるということから、出席を奨励する。

業 績

1. 出席規定は新入会員にその都度配布した。
2. 連続2回以上の欠席者に対しては(メイクアップした者を除く)出席を奨励している。
3. 出席向上のため、会員の出席表を例会場に掲示している。
4. 1年並びに2年、11年連続出席者を表彰し記念品を贈呈した。
5. 結果的には昨年度の出席率は98.89%で、第370区の第9位で表彰されたが、まだまだ向上の可能性は充分あると思つている。

計 画

本年度は昨年度を上廻るような下記計画で出席を奨励する。

1. 年間出席者を表彰し、記念品を贈呈する。
2. 欠席者に対し、個人別にメイクアップを奨励する。
3. 各委員会と連絡して、例会の雰囲気を楽しいものにして出席率の向上をはかる。
4. 欠席事前届出を励行する。
5. 出席掲示板を掲げる。
6. 地区大会、その他の行事に多数の出席を奨励する。

例 会 出 席 状 況

40.7 ~ 9

回数	例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	メイクアップ	出席訂正率	ゲスト	ビジター
117	40.7. 1	43	35	8	81.40	8	100.00	0	10
118	8	44	38	6	86.36	6	100.00	1	8
119	15	44	40	4	90.91	4	100.00	1	13
120	22	44	35	9	79.55	9	100.00	0	13
121	29	44	31	13	70.45	13	100.00	1	19
122	8. 5	44	35	9	79.55	9	100.00	1	15
123	12	44	32	12	72.73	12	100.00	0	16
124	19	44	33	11	75.00	10	97.73	1	23
125	26	44	37	7	84.09	6	97.73	2	15
126	9. 2	44	33	11	75.00	11	100.00	1	21
127	9	44	39	5	88.64	5	100.00	0	20
128	16	44	39	5	88.64	5	100.00	0	26
129	30	44	37	7	84.09	7	100.00	4	28
13回	計	571	464	107	1056.41	105	1295.46	12	227
	平均	44	35	8	81.26	8	99.65	1	17

月 別 出 席 率 表

年 月	%	出席率	地区 順位
	90		
	100		
39. 10	100.00	100.00	1
11	100.00	100.00	1
12	99.02	99.02	6
40. 1	100.00	100.00	1
2	97.56	97.56	23
3	99.42	99.42	7
4	99.41	99.41	8
5	96.57	96.57	22
6	98.26	98.26	14
7	100.00	100.00	1
8	98.87	98.87	10
9	100.00	100.00	1

平均 99.09%

職業分類委員会報告

委員長 大小田 友 一
 委 員 黒 木 長 太 郎
 " 柳 田 喜 雄

基本方針

地区内職業に適合した職業分類表を作成して、会員に配布し、本年度少なくとも5名増を目標に未充填分類を充填するよう理事会に勧告し、会員に推せん方依頼した。

業 績

8月26日に委員会を開催して、前年度の職業分類について再検討し、9月1日充填、未充填の会員職業分類表を作成した。

計 画

本年度中に委員会を少なくとも2回は開催して、職業分類について検討したい。

職業分類別会員数 (48名 44名)

職 業 分 類	会 員 数	職 業 分 類	会 員 数
自 動 車 工 業	1 名	家 具 及 備 品	1 名
酒 精 飲 料	2 4 名	旅 館 及 食 堂	1 名
放 送	1 名	施 設 及 病 院	2 名
ビジネス・サービス	1 名	保 險	1 名
化 学 工 業	1 名	法 律	1 名
菓 子	1 名	機 械 及 装 置	2 名
建 設 業	3 2 名	医 術	5 名
綿 業	1 名	鋳 油 工 業	1 名
衣 料 及 雑 貨	2 名	印 刷 及 出 版	1 名
教 育	5 4 名	鉄 道 装 置	1 名
金 融	5 名	宗 教	1 名
芸 術	2 4 名	ゴ ム 工 業	1 名
食 品 工 業	1 名	木 材 工 業	2 名
植 物 性 食 品	1 名	(シニア・アクティブ)	1 名

会員選考委員会報告

委員長 桜 美 四 郎
委員 林 幸 光
" 倉 園 清 市

基本方針

1. 推せんされた人の資格、職業並びに社会的地位、人格等を十分に調査の上、理事会に報告する。
2. クラブの充塡及び未充塡職業分類表を、一年を通じてしばしば検討の上、開放された職業分類を充塡するよう、適当な人物を理事会に推薦する。

業績

創立以来、特に会員の質の点に留意して選考したので割合に早く協調ムードが出来た。

計画

今年度は少なくとも5名の会員増加を目的とし、それもできるだけ若年層の増加を計りたい。

プログラム委員会報告

委員長 西 郷 隆 永
委員 高 田 光 義
" 名 越 時 秀

基本方針

できるだけ奉仕の精神に沿い、品格と興味のあるバランスのとれたプログラムを編成するため、役員及び各委員長と密接に協力してゆく。

業績

次葉の通り

計 画

1. 例会の卓話はゲスト50%, 会員25%, 映画25%という従来の方針を持ち続けたい。
2. 予定の例会より少なくとも一カ月前から十分に計画したい。
3. プログラム委員会は極力、例会日以外に毎週集つて万全を期してゆきたい。

卓 話 一 覧 表

月 日	来 賓 卓 話			会 員 卓 話	
	氏 名	職 業	題 目	氏 名	題 目
7. 1				塘 一 郎 (地区協議会 出席者報告)	会長に就任して
8				春山ジヤステ ン	神なんかい ない
15	小 浦 博	毎日新聞社 鹿児島 支局長	小さな親切運動 について		
22		日本銀行鹿支店 提供 (映画)	火山灰		
29	飯 守 重 任	鹿児島地方 裁判所長	ソ連, 中共の抑 留生活		
8. 5	井 上 信 一	日本銀行鹿支店長	最近の経済情勢		
12				米 倉 秀 雄	老 人
19		県視聴覚ライブラ リー提供(映画)	京都の庭園		
26	相 良 長 広	鹿経済同友会常 任幹事	九州縦貫道に ついて		
9. 2	平 石 幸 作	鹿血液銀行所長	少ない献血, 預血		
9				(家族懇親会)	
16				林 幸 光	音楽の流れ
30	勝 目 清	鹿児島市 名誉市民	庄内について		
10. 7	遠 矢 善 栄	大口市医師会長	おぎや一献金		

広報委員会報告

委員長 鮫 島 志芽太
委員 田 平 礼 章
" 岡 山 栄

基本方針

クラブの歴史が浅いので、クラブ内会合にはなるべく多くのゲストを招き、またクラブ外各地域機関とくに新聞、ラジオなど各マスコミ機関に働きかけ、ロータリーの精神、なかでも「奉仕の理想」に関する理解をはかるとともに、クラブ各行事の周知浸透を期する。

業績

1. 二周年記念行事、インターアクトクラブ行事、山形県鶴岡 R・C との兄弟クラブ盟約式、ロータリー賞授与式（40年度新設）、ワンダーフオーグール功労者表彰式などを通じて、ロータリーの意義を周知させた。
2. 以上の各行事や公式訪問、地区会議などを広報素材として各マスコミ機関などとの会合をひらき、趣旨の徹底をはかった。

計画

1. ロータリーは、とかく、金持ちや知名士の「ひるめし会」と誤解されがちなので、本当のロータリー精神とクラブ活動の実態を P・R することにつとめる。とくに報道機関の理解をはかる。
2. クラブ内各組織と連絡し、各種行事の広報、宣伝につとめる。（各委員会の協力をたえず要請していく）
3. 三周年記念行事のクラブ計画に伴ない、ロータリーの各種目的の周知徹底をはかる。

親睦委員会報告

委員長 土 橋 英 夫
委員 小 山 幸 義
" 堀 川 昇
" 岩 田 太 一

基本方針

会員間の理解と友愛を深め、更に家族ぐるみの親睦に発展するよう努力実行する。

業 績

1. 毎月第一例会日に、その月の該当者に対して誕生祝、結婚祝を贈り、誕生者には全員でバースデイソングを唄つて祝福する。
2. 第一回家族会を親月会として開催したが、天候不順にも拘らず盛況で、会員家族相互の親睦に役立った。
3. 県下5クラブの親睦ソフトボール大会に参加した。
4. 353区鶴岡ロータリークラブと姉妹クラブの盟約を結び、Club to Clubの友好を交わしている。

計 画

1. ピアノを購入し、ムードミュージックを演奏して例会前の会場を肩のこらない雰囲気にした。
2. クリスマス・パーティーの外に春秋二回家族会を行ないたい。
3. クラブ対抗の諸々の行事には積極的に参加し、他クラブとの親交を深めるよう努力したい。
4. 例会で誕生祝、結婚祝の他に会員家族の結婚、入学、卒業、就職等をお祝い申しあげたい。

ロータリー情報委員会報告

委員長 川 路 清 高
委員 久 保 政 次
" 岡 元 健 一 郎

基 本 方 針

会員、特に新入会員が、ロータリーについて理解を深め、ロータリー精神を身につけるために必要な情報を提供して、これを援助し助言する。

業 績

1. 新入会員に対しては、例会後特に呼んで話し合いを持ち、ロータリーの歴史、綱領、活動について適確な理解、知識を与えている。
2. 例会に於いて少くとも月2回インフォメーションを行つている。

計 画

1. 新入会員がロータリーに通暁するために、入会当日の簡単な話し合いだけでなく、それ以前に会合の機会を得たい。
2. ロータリアン誌、その他の文献を渉読して、情報に関する記事を会報・雑誌委員に提供したい。

会報・雑誌委員会報告

委員長 福田敏之
委員 齊藤善右衛門
" 鮫島志芽太(兼)

基本方針

1. 会報はクラブ強化のための靱帯であるという使命に鑑みて、クラブ活動のすべてを伝えるようにつとめる。
2. 編集理念としては、あくまで穏健中庸を旨とする。
3. このため
 - イ みんなが知っておかねばならないロータリーの知識、将来の活動計画のほか親睦、出席向上のための記事、またインターアクト活動等を掲載してゆく。
 - ロ ロータリー情報委員会と連絡をとり、R・Iについてのすべてを周知させるよう、ロータリーの刊行物をよく調査し、その精神、計画、情報などの大要を掲載し、ロータリー理解の資とする。
4. 内容は興味をもつて読まれるように編集する。
5. 会報は年2回特集の形で編集発行する。
6. 週報は毎週発行するが、臨時号を発行することがある。

業績

1. 会報発行
2. 週報の発行
3. 地区協議会報告の詳細を報道。

計画

1. 週報は記録を中心としてゆくが、基本方針にそつてあらゆる必要な伝達事項を、読みやすく読んで貰えるように研究してゆきたい。
2. 会報は、会員の親睦、団結の強化のためのものとし、興味をもつて読まれるものにしたい。
3. 来年3月、創立3周年を迎えるので「3年間の歩み」を特集し、歴史をふりかえりながら前進への誓いを新たにしたい。

S・A・A・報告

S・A・A 高井敏治

基本方針

会長、幹事、親睦委員と連絡を充分にとり、例会が品位をもつて明るく運営されるようにつとめ、当クラブの特色をつくり出したい。

業績

1. 例会の着席を委員会別、組別と夫々各週変え、会員相互の親睦を深めるようにしている。
2. ビジターの着席は一カ所に偏しないようにして、会員との話し合いの機会をつくつた。なお、例会の早退者が続出することは、例会の雰囲気甚だ損うものであるが、これについて二カ月間調査した。その結果、早退の原因の主なものは例会の卓話によることがわかつた。

計画

1. 今後も積極的にニコニコ箱を利用して、よろこびをわかちあいたい。
2. ゲスト、ビジターを親切丁寧に迎え、友情を深めるように努めたい。

職業奉仕委員会報告

委員長 岩元正二
委員 衛藤右三郎
" 斉藤一夫

基本方針

会員各自の職業を通じ、社会に奉仕することはロータリー精神そのものであり、同時に各自の職業の道徳的水準を高めるということを基本方針とする。

業績

各職場における優良職業人の表彰（5名）を行つた。

計画

1. 緊迫せる交通事情の現況よりして、安全交通指導に最も重要な役割を果たしている優良警察官の表彰（警察当局と打合せ済み）。
2. 今後も優良職業人の表彰を行いたい。
3. 会員の事業場及び工場の見学をして、理解を深めたい。

社会奉仕委員会報告

委員長 安 楽 慶 一 郎
委員 上 野 得 郎
" 堀之内 昭 一 郎

基本方針

地域社会における手近な問題を取りあげてこれに奉仕し、地域社会の福祉増進を図りたい。

業 績

1. 三クラブ共同で交通安全県民会議、市民会議に協力、2人宛交通補導に出席、約2時間宛奉仕11回。
2. ロータリー賞受賞者を選こうした。
3. 県下五クラブ共同で十島村（無医地区）へ医薬品、救急箱セット（12個）を寄贈した。

計 画

1. 県下他クラブと協同して社会奉仕を行なっていきたい。
2. 前年度の業績を検討し、効果的で実行可能なものは本年も引続き行ないたい。
3. ロータリー賞のような当クラブとしての特色をもつと作り出したい。
なお活動の内容としては次のような計画をもっている。
 - (1) 歳末助け合い運動に協力する。
 - (2) 無医地区（特に離島）への医薬品の寄贈を県内他クラブと協力して行なう。
 - (3) 整肢園等身体不自由者の施設に勤務する職員の激励感謝。
 - (4) 献本運動に協力（ロータリー図書、図書館寄贈を含む）
 - (5) 交通安全運動に協力。
 - (6) 地域都市の美化運動に協力。

青少年奉仕委員会報告

委員長 柴 山 一 雄
委員 高 井 敏 治 (兼)
" 光 安 善 雄
" 春 山 ジャステン (兼)

基 本 方 針

青少年を正しく、明るく、健全に育成し活動せしめるよう、又不良化を防止し善導することに努力する。

業 績

1. ワンダーフォーゲルの鹿児島3 R・Cの当番クラブになり、宿舎の設営及運営に万全を期した。
2. ワンダーフォーゲル10年連続参加の鹿高校新原教諭を3 R・Cで表彰した。
3. 福岡でのワンダーフォーゲルの反省会に出席した。
4. 鶴丸高校インターアクトクラブの充実と強化を促進した。
5. 県下5クラブでインターアクト設立のための連絡協議会を主催した。

計 画

1. 地区青少年運動に協力。
2. インターアクトクラブの充実とP・R。
3. 整肢園の慰問を続けたい。
4. 小さい善意運動に協力したい。
5. 非行少年の補導に協力したい。

国際奉仕委員会報告

委員長 島 津 忠 丸
委員 佐 伯 延次郎
" 春 山 ジャステン

基 本 方 針

R・I会長の方針に従い、定められた交換クラブのみならず、務めて機会を求めて国外クラブとの交友をあたため、国際親善の面に寄与する。

業 績

1. 8月下旬、上智大学学生千早正東君の米国サンタクララ大学留学に際

し、サンタクララR・Cに対し紹介した。なお当クラブのバナーを托した。

2. 鹿児島地区3クラブ合同で交換地区に送るべきクリスマスカードを製作中である。
3. 交換クラブに対し、当地紹介を兼ねて親善の便りを発送した。

計 画

1. 前記クリスマスカードを会員に配布、各個人からも親善のカードを発送することになっている。
2. 世界理解週間には、前年に引き続き在鹿児島外国留学生を招いて交歓会を催したい。

附 表

昭 和 4 0 年 度 予 算 書

会 員 名 簿

会 員 職 業 分 類 表 (別 紙)

ク ラ ブ 会 報 ()

昭和40年度収支予算書

1965-7~1966-6

(収入の部)

費目	予算額	摘要
前年度繰越金	133,991	
前年度繰越基金	65,000	
年会費	1,728,000	18,000円×48名×2期
雑誌代	58,080	660円×44名×2期
入会金	75,000	15,000円×5名(新入会員)
基金特別負担金	25,000	5,000円×5名()
ロータリー財団寄附金	18,000	3,600円×5名()
ビシヤ-会食費	273,000	350円×65名×12ヵ月
雑収入	80,000	≡フコ箱外
合計	2,456,071	

(支出の部)

費目	予算額	摘要
1. 人頭分担金	98,280	上期1,080円×43名 下期1,080円×48名
2. 地区資金	36,400	" 400円×43名 " 400円×48名
3. 地区国際青少年資金	9,100	" 100円×43名 " 100円×48名
4. 地区大会分担金	45,000	1,000円×45名
5. 米山記念奨学金	27,300	上期300円×43名 下期300円×48名
6. ロータリー財団寄附金	16,200	360円×45名
7. ロータリー財団寄附金(入会時)	18,000	3,600円×5名
8. 雑誌代	58,080	660円×44名×2期

費 目	予 算 額	摘 要
9. 会 議 費	70,000	地区協議会, 地区研究会, 会長幹事会登録料, アッセンブリー補助外
10. 事 業 費	(291,000)	
イ 職 業 奉 仕	20,000	優良従業員表彰外
ロ 社 会 奉 仕	50,000	歳末助け合い寄附及び合同奉仕負担金外
ハ 青 少 年 奉 仕	30,000	ワンダーフォーゲル負担金外
ニ 国 際 奉 仕	10,000	世界理解週間行事及び外国との交通費外
ホ クラブサービス	(181,000)	
① 出 席	20,000	1年, 2年, 3年, 12年表彰記念品代
② 会 員 選 考	1,000	
③ 職 業 分 類	6,000	職業分類表印刷代
④ 親 睦	70,000	誕生祝, 結婚記念祝, 家族会補助, リクリエーション負担金外
⑤ プ ロ グ ラ ム	24,000	卓話謝礼 800円×30名
⑥ ロ ー タ リ ー 情 報	15,000	ガバナー月信 90円×46名×2 ロータリー手帳 100円×45名外
⑦ 広 報	15,000	空港, 駅等への看板代外
⑧ 会 報 ・ 雑 誌	30,000	会報, 週報用紙代
11. 会 食 費	1,001,000	350円×55名×52回
12. 事 務 局 費	(531,000)	
イ 人 件 費	330,000	事務員給料及び夏期, 年末手当
ロ 通 信 費	37,000	切手, ハガキ, 送金手数料, 電話料等
ハ 事 務 用 品 費	12,000	事務用品一切
ニ 印 刷 費	20,000	公式訪問報告書, 委員会活動方針, 会員名簿等印刷代
ホ 厚 生 福 利 費	10,000	健康保険料, 厚生年金
へ 旅 費	50,000	地区研究会, 地区協議会旅費, 宿泊費, 年次大会参加提出金外
ト 図 書 費	6,000	新聞代外
チ 借 室 料	36,000	3,000円×12ヵ月(市内電話料を含む)
リ 雑 費	30,000	前会長, 幹事記念品代外
13. 備 品 費	70,000	電話機購入予定
14. 基 金 積 立	90,000	
15. 予 備 費	94,711	
合 計	2,456,071	

会 員 名 簿

	氏 名	職 業 分 類	勤 務 先	自 宅
1	A 安 楽 慶一郎	焼 酎 製 造	安 楽 酒 造 (株) 代表取締役	平之町 130 高麗町 617
2	E 衛 藤 右三郎	建 築 設 計	衛藤建築設計事務所 所 長	西千石町 3の16 宇宿町 253
3	F 福 田 敏 之	民 間 放 送	(株) 南日本放送 取 締 役 編 成 局 長	高麗町 17 草牟田町 4195
4	藤 安 辰 造	味 噌 製 造	藤 安 醸 造 (株) 取 締 役 社 長	住吉町 6の15 住吉町 6の20
5	H 春山ジャスティン	キ リ ス ト 教	日本基督教団 鹿 児 島 地 区 宣 教 師	上荒田町 137 同 左
6	林 幸 光	洋 楽	鹿 児 島 大 学 立 短 大 (千代田短大) ヲ 講 師 教 授	鴨池町 251 加治屋町 1の22
7	堀之内 昭一郎	家 具 製 造	堀之内木工業(株) 専務取締役	東千石町 1の42 加治屋町 4の26
8	堀 川 昇	生 命 保 險	日本生命保険 鹿 児 島 支 社 支 社 長	樋之口町 93 上荒田町 2070
9	I 岩 元 健 吉	製 綿	カクイわた(株) 取 締 役 社 長	郡元町 927 郡元町 1172
10	岩 元 正 二	織 維 品 販 売	山形屋商事 (株) 常 務 取 締 役	堀江町 8 高麗町 143
11	岩 田 太 一	和 菓 子 製 造	(名)明石屋菓子店 取 締 役 社 長	金生町 3 西千石町 129
12	K 河 井 時 義	外 科 医	河井外科医院 院 長	高麗町 183 同 左
13	川 村 洋	百 貨 店	(株) 山 形 屋 常 務 取 締 役	金生町 3の1 下荒田町 2247
14	川 路 清 高	医 学 教 育	鹿 児 島 大 学 医 学 部 教 授	城山町 7 新照院町 154
15	黒 木 長 太 郎	経 済 学 教 育	鹿 児 島 経 済 大 学 学 長	永吉町 450 薬師町 444
16	久 保 政 次	ゴ ム 製 品 販 売	(株)久保利商店 取 締 役 社 長	名山町 1の4 下龍尾町 77
17	倉 園 清 市	信 用 金 庫	鹿 児 島 相 互 信 用 金 庫 常 務 理 事	泉 町 18 下荒田町 72
18	小 山 幸 義	ホ テ ル	(株)鹿 児 島 ホ テ ル 鶴 鳴 館 取 締 役 社 長	城山町 5の30 同 左

19	牧田健二	内科医	牧田医院	院長	下龍尾町 6	同左
20	町田久敬	外国為替銀行	(株)三井銀行 鹿兒島支店	支店長	金生町5の1	薬師町 32
21	光安善雄	原木販売	光安木材(株)	専務取締役	栄町 11	下龍尾町 85
22	N 名越時秀	商業銀行(アディ ショナル正会員)	(株)鹿兒島銀行 武町支店	支店長	武町 429	永吉町295
23	O 大小田友一	自動車販売	新鹿兒島いすゞ モーター(株)	専務取締役	城南町 7の47	坂元町 2281の1
24	岡元健一郎	病院	鹿兒島大学 付属病院	院長	城山町8の3	城山町 7の13
25	岡山栄	会計士	岡山公認会計士 事務所	所長	薬師町 53	同左
26	S 西郷隆永	相互銀行	(株)旭相互銀行	常務取締役	六日町 8	鴨池町507
27	桜美四郎	シニア・アクチブ (瓦斯供給)	日本瓦斯(株)	相談役	武町 501	上之園町 37
28	鯨島志芽太	新聞発行	(株)南日本新聞社	常務取締役 編集局長	易居町1の5	上荒田町 62
29	斉藤善右衛門	林業	(株)島津興業	常務取締役	薬師町 1380	郡元町真砂 5区6班
30	斉藤一夫	鉄道車輛修理	国鉄鹿兒島工場	工場長	上荒田町 800	郡元町24 鹿島鉄道宿舎
31	佐伯延次郎	短期大学	鹿兒島県立 短期大学	学長	下伊敷町 104	清水町 133
32	柴山一雄	歯科医	柴山歯科医院	院長	山下町 9の31	同左
33	島津忠丸	土木建築	新九州建設(株)	常務取締役	吉野町磯 9688	清水町 21
34	T 高德三蔵	機械類輸出入	三菱商事(株) 鹿兒島支店	支店長	名山町 1の3の85	下荒田町 2229の4
35	高井敏治	砂糖販売	(株)高井商店	専務取締役	汐見町 15	加治屋町 144
36	高田光義	石油販売	南国殖産(株)	常務取締役	金生町 5	天保山町 88の3
37	田平禮章	整形外科医	田平整形 外科病院	副院長	加治屋町 16の5	加治屋町 11の17
38	土橋英夫	産婦人科医	土橋病院	院長	西田町 10	西田町 12

39		塘 一 郎	工 業 教 育	鹿 児 島 大 学 工 工 学 部	教 授	鶴池町 52	伊敷町 102 伊敷栄門 住宅 2号
40		飛 岡 俊 夫	商 業 銀 行	(株)鹿児島銀行	常務取締役	金生町 54	平之町 107
41		德 田 基	公 証 人	鹿 児 島 公 証 人 役 場	公 証 人	山下町 17012	照国町 11023
42	U	上 野 得 郎	医 薬 品 販 売	(株)三 開 社	取締役社長	呉服町 5014	清水町 176
43	Y	米 倉 秀 雄	公 立 病 院	鹿児島市立病院	副 院 長	加治屋町 20017	吉野町 9688
44		柳 田 喜 雄	機 械 工 場	函 南 工 業 (株)	取締役社長	易居町 2	西田町 5